

6次産業部門

滋賀県高島市 有限会社宝牧場

代表取締役：田原 ^{たわら} 哲也 ^{てつや} 氏
経営規模：酪農（経産牛）292頭、肉用牛繁殖
73頭、肉用牛（肥育）1,177頭、
養豚100頭



<取組概要>

肉用牛肥育・繁殖、酪農、養豚と複数畜種の生産部門を擁する同社は、ソフトクリームやパン等の製造・販売、焼き肉レストランと精肉販売を担うグループ会社との一体的な経営により、6次産業化の取組を展開。

肉用牛の繁殖経営から規模拡大を進め、1995年、酪農の開始にあわせて法人化。グループ会社による乳製品の加工・販売も同時に開始。宝牧場の敷地内で同牧場で生産した牛乳・肉を使用した乳製品やパン、精肉等を加工・販売するほか、一部加工品を近隣の観光施設、コンビニ等でも販売。

自家育成した子牛を肉用肥育や酪農に用いることで経費を削減。出荷できない初乳を豚に給与して「ミルク豚」としてブランド化を図るなど、肉用牛・酪農・養豚それぞれの生産を的確に関連付けた経営を展開。

飼料には地元農業者と連携して、稲WCS（稲発酵粗飼料）や飼料用米を積極的に活用。堆肥を圃場に還元するなど循環型農業を実践し、地元農業者と共存共栄できる経営を実践。

女性の雇用を率先し、酪農部長をはじめ経営の中核を担うなど、女性の積極的な登用を実施。さらなる規模拡大を目指し、哺乳ロボット発情発見システム、分娩監視カメラなどのICT・IoT技術を導入することで、従業員の労働軽減も実現。また、外国人研修生を10年前から受け入れ、酪農経営における技能習得に貢献。